

2 環境学習

県民一人ひとりが環境に関する諸問題を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要である。当センターでは、環境保全の実践に結びつけるため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。令和元年度の環境学習の取組については、以下のとおりである。

2.1 彩の国環境大学

当センターでは、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。今年度も、環境に関する広範囲かつ専門的な知識の習得を目的として基礎課程、実践課程を開講した。

開講期間：8月31日～11月23日 各課程全10回 受講者：66名 修了者：54名

開講式公開講座

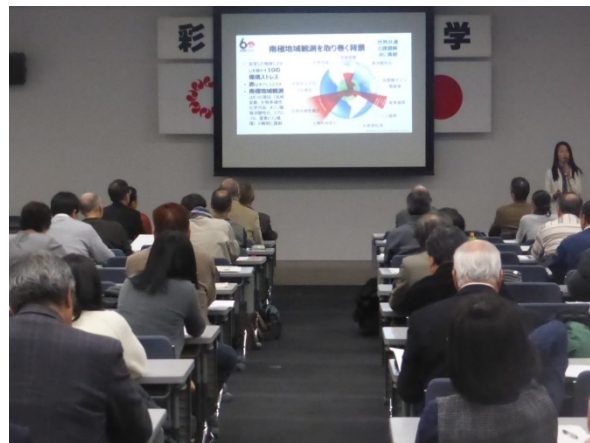
開催日	講義名	講師名
8月31日	碧い海、蒼い空、白い雲 －地球を冷やすには－	埼玉県環境科学国際センター 総長 植松光夫

閉講式公開講座

開催日	講義名	講師名
11月23日	南極地域観測隊 －地球環境研究の最前線の活動－	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 地球環境部門 地球表層システム研究センター センター長 原田尚美



開講式



閉講式公開講座

基礎課程

開催日	講義名	講師名
9月 7日	埼玉の環境 埼玉県の環境の現状と今後の目指す姿 －環境保全・創造の取組－	埼玉県環境部環境政策課 主任 加藤考力
9月 7日	地球環境 埼玉県の温暖化の実態とその影響 －変わりつつある温暖化対策－	埼玉県環境科学国際センター 主任 原 政之
9月14日	水環境 埼玉の水環境 －生き物から見た川の国埼玉－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 田中仁志

開催日	講義名	講師名
9月14日	廃棄物管理 歴史から読み解く「ごみと環境」	日本工業大学 元教授 小野雄策
9月21日	環境法学 環境問題と法の役割 －環境法の原則と法体系－	東京経済大学 名誉教授 磯野弥生
9月21日	化学物質 化学物質と私たちの暮らし －健康で環境にやさしい生活をおくるために－	埼玉県環境科学国際センター 副室長 茂木 守
9月28日	自然環境 生物多様性を考える －今、埼玉県では何が起きているのか？－	埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 米倉哲志
9月28日	環境経済学 地球温暖化問題から考える 私たちの生活と経済	大月市立大月短期大学 准教授 佐藤克春
10月 5日	大気環境 埼玉の大気環境を知る －光化学スモッグとPM2.5のいま－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 米持真一
10月 5日	地球環境問題 国際協力による森林保全と気候変動対策	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 地球環境部森林・自然環境グループ 鈴木和信

実践課程

開催日	講義名	講師名
10月12日 ※	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川達己
10月19日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげひろげるコーディネーターの役割	NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良
10月26日	生物多様性とは何か 自然のしくみを知る(実地演習)	埼玉県自然学習センター 自然学習指導員チーフ 高野 徹
11月 2日	「持続可能な社会」と環境教育 SDGs(持続可能な開発目標)とSDGs推進のエンジンであるESD(持続可能な開発のための教育)を学ぶ	立教大学社会学部 教授 ESD研究所長 ESD活動支援センター長 阿部 治
11月 9日	事例研究 危機感が生んだ都市住民を取り込む活動手法について	NPO法人 宮代水と緑のネットワーク 代表理事 茂木俊二
11月 9日	環境学習プログラム発表・講評	学びの広場 代表 小川達己

※10月12日は台風17号の影響により休講となった。

2.2 公開講座

彩の国環境大学修了者フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ等	参加者
① 彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学修了者の支援を行うため開催している。	令和2年 1月25日	講演「環境学習におけるコミュニケーションを考える」 埼玉県環境科学国際センター 大気環境担当 専門研究員 長谷川就一 活動事例発表「クリーンエネルギー：省エネをめざして」～環境家計簿への取り組み～ 彩の国環境大学修了生の会 木下不二男	48名
② 生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	平成31年 4月28日 令和元年 5月4日 5月5日 8月3日 11月14日 11月14日 12月14日	見てみよう感じてみよう 春の生態園 ネイチャーゲームで遊ぼう 環境トーク&ミュージック 作ってみようティッシュBOXケース 見てみよう感じてみよう 秋の生態園 自然観察会工作教室 実りのリースを作ろう	168名 43名 44名 71名 110名 500名 52名
③ 県民実験教室 簡易な科学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。	平成31年 4月27日 4月29日 4月29日 令和元年 5月3日 5月5日 5月6日 5月6日 6月23日 7月15日 7月15日 7月21日 7月25日 7月28日 7月31日 8月7日 8月8日 8月10日 8月11日 8月12日 10月6日 11月14日 11月14日 11月14日 11月14日 12月15日 12月22日	作って遊ぼう リモコンロボット お花メダルづくり リサイクル紙すき体験 万華鏡を作ろう サイエンスショー「しゅぼしゅぼ」 お花メダルづくり リサイクル紙すき体験 廃油からリサイクル石けんを作ってみよう 廃油からリサイクル石けんを作ってみよう サイエンスショー「マイナス196℃の世界」 自由研究のテーマ探してみませんか タネと発芽 身のまわりの空気の汚れを調べてみよう 大気汚染を目で見てみよう サイエンスショー「化学反応！！」 ドローンで富士山の不思議体験？ 電気実験教室 乾電池チェッカーを作ろう アロマ虫除けグッズ作り 環境を科学する博士になりたい サイエンスショー「電気を運ぶものの正体をさぐる」 サイエンスショー「空気ってチカラもち」 電気実験教室 自然塩を作ろう お花メダルづくり 廃油からクリスマスアロマキャンドルを作ろう 草木染めをしてみよう	149名 73名 72名 132名 140名 96名 96名 100名 17名 372名 128名 50名 73名 53名 280名 65名 122名 100名 96名 132名 176名 190名 70名 34名 320名 47名 35名

(35講座、計4,254名)

2.3 身近な環境観察局ネットワーク

環境に関心がある県内の個人や団体に、簡易な環境調査法の学習・調査報告・情報交換の機会を設けることにより、環境保全活動の推進や観察局同士のネットワーク形成を図っている。

観察局数:101局(令和2年3月31日現在)。

身近な環境観察局では、光化学オキシダントのアサガオへの被害状況と特定外来害虫であるクビアカツヤカミキリの調査を行っている。令和元年度は説明会を3回実施した。また、身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会を計画したが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止の観点から中止とした。

2.4 研究施設公開

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日に研究施設の一般公開を行った。

開催日		内容	参加者
5月5日	ゴールデンウィーク	普段非公開の研究施設を特別に公開し、研究員が解説や実演を行った。	213名
8月7日	夏休み		214名
11月14日	県民の日		377名

(計804名)

2.5 その他

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日等に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
① ゴールデンウィーク特別企画	4月27日	・オリエンテーリングクイズ ・サイエンスショー ・自然観察会 ・各種環境講座 ・研究所公開	参加者延 5,287名
	～ 5月6日		
② 夏休み特別企画	7月15日	・オリエンテーリングクイズ ・サイエンスショー ・リサイクル工作 ・研究所公開 ・各種環境講座	参加者延 8,948名
	～ 8月25日		
③ 県民の日特別企画	11月14日	・サイエンスショー ・自然塩作り ・自然観察会 ・オリエンテーリングクイズ ・研究所公開 ・どんぐり工作コーナー	参加者延 4,451名
④ 上映会	4月27日	・巨大昆虫はなぜ絶滅したか ・激闘カブト×クワガタ ・大科学実験 ほか	参加者延 986名
	～ 1月7日		

(計19,672名)